

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 11日

事業所名 ぶるーべりー石橋

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0%	100%	収納・レイアウト	利用児、職員、物品含め手狭になっている移転を検討している
	2 職員の配置数は適切である	71%	29%		居るに越してことはないが、手狭とあり増員は行い難い
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		定期的に見直すことでより配慮に繋げていく
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	ミーティング	定期的に話し合いに場を設け、改善を図る
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	86%	14%	SNSの活用	アンケートを行ってはならず、保護者の意向などまとめた物をSNSで発信し共有しているが試行の段階でありより良い物にしていく
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		ホームページにて掲載
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		他法人と話し合いなどはあるが評価というほどではない。形の改善を図っていく
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	14%	定期開催	行っているが頻度や内容など改善は必要惰性とさえなくもない	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	保護者、他機関との連携	過不足なく行えていると思うが、個人的には切り口を変えていきたいと思う。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	86%	14%	独自の物	内容の変更は必要、今に合った物を作る
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	定例化	負担にならない発案を促す
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	定例化	バラエティーに富んでいると思うが、物によっては固定されているものもある
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	71%	29%	ミーティング	日々のミーティングで行うが長期休みなどは事前事前に行う事で切迫しないようにする
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	86%	14%		アセスメント同様切り口を変えていきたい
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	ミーティング	習慣化していることもあり簡素化しないように注意していく
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	SNSの活用	ミーティングの内容を残しておくことで振り返りなど行い易いようにしているが見やすさや引き出しやすさなど改良は必要
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	SNSの活用	上記同様見やすさ、引き出しやすさが必要
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		行えていると思うが特別なことを行っていない
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	71%	29%		万全な形に沿っていく

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		参画は出来ている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	86%	14%	情報共有	保護者がメインではあるが、連携が必要な学校と行えてきている。適宜行っていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		医療的ケア児の受け入れを行っていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	早期対応	本利用に至る前に顔合わせや体験利用等を行い本利用に向けている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%		児童により差はあるが行う機会も増えてきている 経験を重ねていきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0%	100%		動画等の研修にとどまっておリ連携が取れているとは言えない。参加機会を増やしたいところではある
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		スタッフの子、利用児の兄弟のみは変わらずである
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%	検索	時世柄なのか関係市町村で行われている様子はない
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎時	送迎時にメインで行っており、その中で必要に応じて、電話や面談といった形になっている
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	14%	86%		要望に対してがメインであり、積極的に行っているわけではない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	伝達方法	誰が聞いても分かるといった意識で臨んでいる どう伝えることが分かりやすいのか模索していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		相談に対してはその都度応えている もっとと思えるような成果を挙げられるよう手技の向上を図る
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%	イベント	イベント開催も行ってはいるが時世柄参加したいという方はいないといった現状
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		マニュアルもあり周知も進めているが幸いなことに実働はしていない
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		会報という物はなく、予定・周知案内等はその都度渡している 会報の発行は検討していない
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		労働契約時に個人情報について交わしている 掲示、処分などその都度説明もしている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	86%	14%		保護者に関しては文面口頭等、行い易い形をとっているが児童に関しては方法を模索していく必要もある
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%		現状求められていない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	86%	14%	簡素化	周知は出来ているとは思いますが読みやすく、分かりやすく、かさばらないものに変えていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	プログラム	習慣化しているところもあるので惰性を避けていく。形式の変更など検討していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	14%	情報収集	研修内容など有り体な形に思うので変化は必要。情報量を増やしていきたい
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	86%	14%		有り体な形だけではなく思慮を深めていきたい
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	掲示	食品のある場所など複数掲示しておき注意を図る
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	掲示	共有や確認が行い易いよう掲示している